



発行 社会福祉法人 聖友ホーム  
 聖友乳児院（乳児院）  
 聖友学園（児童養護施設）



＜乳児院から＞

現在育休中（第1・2子育休取得）の久保指導員（女性）  
 過去に育休を取得した小張保育士（女性）

＜聖友学園から＞

2023年度育休を予定している奥塚保育士（男性）  
 今後結婚を予定している藤原保育士（男性）

## 育児休業の現状を働く職場から 語っていただきました

介護育児休業法に関して、2019年4月から2021年10月  
 かけ矢継ぎ早に改正が行なわれました。聖友ホーム  
 の職場での育児休業の実際や印象などを、お集まりい  
 ただいてお話を伺いました。



### 七年ほど前に育児休業の経験のある小張さん

＜小張＞ 現在小学校三年の子が生まれた時に、育児  
 休業を取得しました。私がない間、周りの人が大  
 変になってしまうという心配がありました。

辞めた形では保育所を探すのにも難しくなりますし、  
 職場に戻ることができるということで、安心して育  
 休を貰えることがありがたかった。

1歳の誕生日前日までの期間の、産休と育休でした。  
 非常勤でしたので、時短勤務とかはなかったです。  
 給付金額は、現行と変わらないようです。

当時でも、男性の育休が制度としてなかった訳では  
 ないんですが、世間的にとりにくかったようです。  
 当然母親がみるっていうことで。

友人の家ではお父さんが育休をとっていましたが、  
 有給の範囲で休業をとらせてもらっていたような感  
 じでした。

男性が休業しやすい状況であったら、助かったと思  
 います。



### 幼子を抱えて出席いただいた現在育休中の久保さん

＜久保＞ 去年の四月には復職する予定でしたが、第  
 二子の妊娠・出産となり、休業を続けさせていただ  
 きました。

保育所は年度途中の入所は難しく、遠くであったり  
 兄妹別々であったりすると、送迎が大変で仕事に影  
 響が出てしまうと困るので、同じ保育園に入所でき  
 るまで待つつもりです。

育休の制度については、職場の先輩たちから教えて  
 もらいました。

それで、育休を取ってもいいんだと思いました。

周りも「いいよ」って言ってくれました。育休を  
 取れるということは、元の職場に戻れるという安心  
 感になります。

職場への復帰については、コロナ禍と被って3年以  
 上休んでしまい空白が長くなってしまったので、職  
 場の状況の変化に自分が対応できるのかという不安  
 はあります。しかし、職場の方が「待ってるよ」と  
 言ってくれるので復職の予定でいます。

夫は、出産時に育休は取っていません。取れたら  
 よいですが、出産当時は夫が取るということを考え  
 ていませんでした。

＜小張＞ 世話する人数が増えるだけで（笑）

＜久保＞ 家事・育児について、夫は手伝ってくれて  
 はいるなあ、っていう感じですね。どうしても、育  
 休を取っている自分が中心になってしまいましたが、  
 夫の協力なしでは成り立たないと思います。



### 五月から半年ほどの育児休業を申請している奥塚さん

＜奥塚＞ 妻と同じ職場で働いていました。妻は第一  
 子出産後、早期に職場に戻ることを望んでいました  
 が、以前の職場では自分の休業が思うように取得で  
 きそうもなくて、聖友学園の方に事情を話してこち  
 らに移りました。この度第二子を授かり、第一子も  
 丁度小学校に入学のタイミングだったので、育休を  
 取得することで、2人とも丁寧に見てあげられると考  
 えています。

制度が変わって夫婦同時に休業が取れることを知り、  
 12月までの半年間の休業を申請しました。希望  
 通りに運んで喜んでいきます。

職場では、コロナ下で会話する機会が少なくなくて、

男性同士での育休に関する話題は余りなかったのですが、報告するとすぐ皆が喜んでくれて、気持ちが楽になりました。お互いのモチベーションが上がって、若い人たちにも良い影響があるような気がします。

家事・育児自体は、手伝っている感がでてしまって、やはり妻が主導、彼女の意見が正解です(笑)。

今まで妻まかせでいた分も、この半年間を利用して、なんとか就学する子どもと親密な関係を築いていけるきっかけにしたい。この制度があれば、長く幼い子どもたちとの交流のある生活時間を、持ち続けていけるような希望があります。

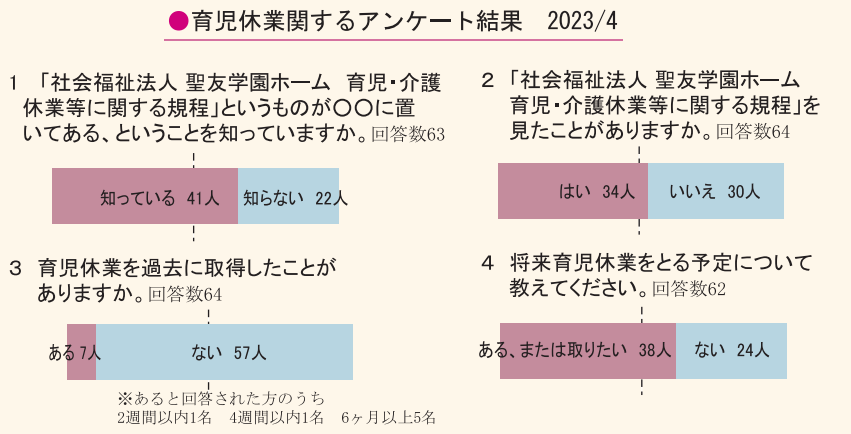
急遽、出席いただいた結婚予定の若い藤原さん

〈藤原〉子育ても、パートナーの彼女ばかりに任せるのではなくて、育児休業はとりたくなって思います。でもまだ現実感はあまり…。

周りの人・先輩がとっていただけると、いいかな。とるとなると、申し訳ないなっていう感じで。

〈小張〉気兼ねなくとれるようになるといいですね。

〈藤原〉自分の周囲では、1・2週間休んだら、またお金稼がないと、と話しています。家事については、ひとり暮らしの経験もふまえて何でもしていますが、彼女の眼からみると、疑問やクレームが多いようです。



〈久保〉仕事と育児は、どちらも大変だけど、どちらも楽しい。育休をとらせてもらって、自分の子どもと向き合える時間がとれるのでありがたいです。そして好きな仕事も続けられて、幸せだなんて思います。

〈奥塚〉高齢児中心のホームから、幼児中心のホームに移ってみて、幼児をみるのは思った以上に大変ですが、自分の子どもを育てた経験が生きています。

幼児の場合は時間通りにはいかない、食事中に眠ったら「このまま、そっとしておこうと…」

〈小張〉小さい子は、すぐに熱をだしたりしますから、私の場合は両親が近くにいると助かりました。

〈奥塚〉自分の子との経験により、仕事の現場での子どもとの対応にも、ゆとりが生まれてくるような気がしています。幼児との職場にも男性の力が必要と気づいて、これから男性職員が増えてほしいです。

早春  
節分

鬼っ！こわいよぉ

聖友乳児院にも、鬼がやってきました！

鬼が部屋にやって来る前に、鬼に見立てた風船にボールを投げて、鬼退治の練習をしました。やっつける気満々で、ボールを投げた子どもたちでしたが、鬼が来ると大泣きで職員にしがみついたり、部屋の隅に隠れたりとても怖かった様子です(；\_；)。

中には、泣かずに勇敢に立ち向かっていく子どももあり、一生懸命鬼に向かってボールを投げて



いました！

鬼が逃げて行った後は、職員に抱っこをしてもらい、安心して過ごしました。「〇〇ちゃん、おに、ないちゃったの」と話す子や、鬼が来ないか窓の方を気にしている子もいました(＊´艸`)

低月齢の子どもの中にも、鬼に抱っこをされ泣いてしまう子が数名いました。チラチラと鬼の顔を何度も確認しては、大泣きをしていました(´；ω；`)

乳児院 長野紗津貴



ご寄付の  
お願い

日ごろから、聖友ホームの子どもたちにお心を寄せていただき、ありがとうございます。  
本紙で進捗をお知らせしている乳児院と学園の建物の改築計画ですが、昨今の物価高騰の社会情勢の中、建設資材の物価も1年で10%以上上がっているため、工事費も想定より高くなってしまいました。2025年の竣工を実現するため法人全体で一丸となって改築資金を捻出してまいります。子どもたちの日々の暮らしもしっかりと守っていかねばなりません。皆様には、子どもたちの暮らしを支えるために、どうぞご寄付のご支援、ご協力をお願いいたします。  
理事長 若松弘樹

## 発足2年のLSW（ライフストーリーワーク）活動報告

# LSW（ライフストーリーワーク）を 聖友ホームの文化に

2021年度から開始したLSWプロジェクトも、2年目を終えようとしています。発足時に、このプロジェクトについてご紹介いたしましたが、今回はその2年間の活動内容報告です。

### 各チームごとに難しさを感じ——1年目

ツール検討チームは、入所している子どもに多くみられるケースを想定して、架空事例を作成、事例検討をしました。LSWのツールの扱い方や管理方法を考え、導入する難しさを感じました。

ツール作成チームは、聖友乳児院（以下乳児院）出身の子どもを受託した特別養子縁組里親と、聖友学園（以下学園）の卒園生へのアンケートやインタビュー、学園のベテラン職員へのアンケートを実施しました。各々の結果から見えてきた、LSWに求められることを分析し、具体的に必要なツールについて検討しました。

実践報告書作成チームは、LSWプロジェクトの様子を記録に残し、成果発表に向けて準備しました。1年目の成果として、乳児院・学園の職員に「LSWとは何か？」というところから理解を促し、知識の底上げを図りました。

### プロジェクトの全体像が明確になった——2年目

ケース検討チームは、2つの課題に取り組みました。まずは、これまで両施設が取り組んできたLSWについて振り返り、施設によって視点や課題が違うことを共有しました。次に、各子どもにとってLSWに取り組む最適な時期を検討するため、導入チェックシートを作成しました。シートに記載されたチェックの数から、子どものLSWの必要性の程度を可視化し、客観的に捉えられるよう工夫しています。導入チェックシートの結果をひとつの指標としつつ、子どもが発信したニーズを丁寧に拾いながら、最適な時期の検討を行います。次年度は、実際にチェックシートを使用して、小学生の中から2名選定。乳幼児はツールの適用が難しいため、ケースの状況を鑑みながら2名選び、LSWの実践を行う予定です。

ツール作成チームは、聖友ホームオリジナルのツール作成を目標に、3つのツールについて考えました。

LSWの実践内容や方法が記載された「手引書」、子どもの情報を一元化する「アセスメントシート」、子どもの成長とともに、養育者が子どもに対して抱く想いも記載する「育ちノート」です。作成にあたり、職員アンケートの実施や、スーパーバイザーの徳永先生にアドバイスを頂きながら、改良を重ねました。特に「育ちノート」は、「よく泣いていた」や「人見知り」が激しかったなど、成長を振り返って現在と比べることが出来ます。過去から現在を繋ぐ1冊として、子どもたちの財産になってほしいと、想いを込めて作成しました。今年度最後には、育ちノートの名称を全職員に募って決定しようと考えています。



徳永先生講義



チーム話し合い  
新旧プロジェクトリーダー  
zoomを使って徳永先生に相談

実践報告書作成チームは、昨年度に続きLSWの活動を撮影、記録してきました。また、法人全体でLSWプロジェクトについて考えていくことを目標に、両施設の職員会議の時間を活用し、プロジェクトメンバー以外の職員の考えや想いも吸い上げ、共有してきました。当法人は現在、乳児院と児童養護施設の合築を目指し、本体施設建て替えに向けて動いています。徳永先生からは、両施設合同でLSWに取り組んでいることは、全国的に初めての試みであり、ハード面だけでなく、ソフト面でも施設の強みになるとご評価いただきました。この強みを活かし、「聖友ホームで生活したこと」が子どもたちの生きる力の糧となるよう、そして、このプロジェクトが聖友ホームの文化となるよう、次年度はプロジェクトのまとめにとりかかります。ひいては、この取り組みが他施設へ波及することを願い、その発信方法についても模索します。

## 職員のエッセイ

## 「子育てに関わる喜び」

『困っている子どもの手助けとなる仕事がしたい』・・・と、漠然と考えるようになったのが中学生の頃。きっかけは、父の仕事の関係で幼少期を海外で過ごし、そこで母に連れられ、孤児院へお手伝いに行ったことでした。世の中には、社会的養護を必要とする子どもたちがいるのか、と初めて知る機会となり、保育士になるため大学へ進学した時には、既に乳児院で働く事が目標となっていました。

そうして、念願かなって乳児院への入職以降、昨年度までは入所児の養育に携わっていましたが、乳児院でも要支援ショートステイが始まる事が決まり、地域支援担当職員としての配置転換がありました。私の4歳になる娘の育児がベストなのかも分からず、試行錯誤しながら日々過ごす中、自分がこの役職として働けるのか？不安がある中のスタートではありましたが、私生活でも育児をしているからこそ、利用者への声掛けや自分の体験談、アドバイスなどをお伝えすることが出来ていると実感しています。

これからも育児の大変さやツラさ、楽しさや喜びを共感しながら、時には一緒に悩み、励まし・・・子どもだけでなく大人も同じ歩幅でゆっくりゆっくり、一緒に成長していけば良いのだと伝える中で、子育てに関わる事の喜びにも、気づいてもらえるような語り掛けや取り組みを考えていける、そんな職員でありたいと思います。

聖友乳児院 保育士 ショートステイ支援員 小林彩夏

食材  
四季

## キノコ、収穫しました！

乳児院では、コロナ禍の影響で子どもたちが食べ物に触れて学ぶ機会が減少していました。

そのため今年度から、食育委員会という新たな専門委員会ができ、夏には野菜の植ええ・収穫、冬はキノコの栽培・収穫を行いました。

今回は、キノコの栽培・収穫の様子を紹介したいと思います。

育てたキノコは『しいたけ』です！「きのこ栽培キット」を使用しました。

- ① 栽培ブロックを水洗いして付属の袋に入れ、直射日光が当たらない場所に保管します。
- ② 1日1～2回、霧吹きで水やりをします。
- ③ およそ7～10日で収穫出来ます。

食堂でキノコの栽培をしていたので、高月齢の子どもは「あそこに、きのこがあるよ」「きのこ、

いっしょだね」と、楽しそうに食事をしていました。日中の保育の中では、霧吹きで水やりをし、キノコの成長過程を観察しました。「おおきいね」と喜んでいる子もいました(\*^-^\*)

キノコ収穫時には、手袋をはめて子どもたちの手で収穫をしました。真剣な表情で収穫をする子、何度も収穫をしたいと意欲的な子、見慣れず中々触れない子など、様々な反応がありました。収穫をした後は、調理さんの元へ持っていき、調理をお願いしました。きのこの歌を唄い、とても楽しそうな子どもたちでした♪

自分たちで食材を育て、直接触れることができ、食への興味や関心・意欲に繋がる良い体験になりました！

聖友乳児院 保育士 長野紗津貴

